

令和7年度 東地区放課後子ども教室利用状況

◇放課後子ども教室登録者 123名（東部小 120名・風越 3名、サミット 0名）2月末現在

※東部小学校在籍児童数130名（令和8年3月1日現在）全児童の97.6%登録

◇放課後子ども教室開所日数 293日（2月まで268日）

◇放課後子ども教室の一日の平均利用者 10,793人／268日＝40.3人（2月までの平均）

月	日数	放課後子ども 教室利用数	利用児童内訳			地域協力者	
			東部小	風越学園	サミットアカデミー	講師等	ボランティア
4	25	899	899	0	0	1	0
5	25	1,142	1,142	0	0	1	0
6	25	1,173	1,173	0	0	4	0
7	26	1,168	1,168	0	0	8	0
8	25	523	513	10	0	0	0
9	24	1,088	1,087	1	0	16	0
10	26	1,177	1,177	0	0	16	2
11	23	958	958	0	0	1	4
12	24	773	773	0	0	0	0
1	23	935	935	0	0	1	0
2	22	957	957	0	0	3	0
計	268	10,793	10,782	11	0	51	6

【今年度の評価（現状と課題）】

○活動や運営について

・放課後子ども教室が主体性を育む場となるよう様々な場面で自分で決める機会を創ってきた。（来館時にいつ学習するかを表明する。長期休みにその日の日課表を立て掲示するなど）

・「居たい」「行きたい」「やってみたい」居場所となっているかを検証するために、体験教室（謎解きネイチャーゲーム）にアンケートを盛り込み、子どもたちの意見を聴く機会を創出した。

○体験教室について

・伝えたい地域の伝統行事（太太神楽・追分節）や、知っていてほしい聴覚障がい者の言語（手話）、子どもたちが夢中になり、もっとできるようになりたくなる工作スポーツ等、多様なジャンルの体験を地域の方々の協力を得て実施できた。また、低学年を対象に「主体性」「協調性」を育み「自由な遊び」を獲得できるよう「あそびクラブ」を月1回実施した。

熱心に取り組む子どももいる傍ら、「やりたくない」「強制されたくない」「宿題をやりたい」等、参加を渋り、抵抗する児童も増えている。事前の告知方法や、当日の展開等、子どもたちに興味を引き出す工夫を行ったが十分な効果は得られておらず試行錯誤の段階である。

○学校や地域との協力・連携について

・学校とは、職員会議への参加から、教頭先生と館長との月1回の定例と随時の懇談という形に変更し、必要な支援につながる個別の情報交換をコアに行える機会を設けることができた。

・体験教室では、地域の方々に講師を担っていただき、様々なジャンルのプログラムをご教授いただいた。また、ボランティアセンターとの連携でボランティアとして協力を得ることができた。

<児童の様子>

・宿題の後に、学年ごとに思い思いの遊びが定着している。「何もすることがない」、「暇」と言ってくる児童がいなくなった。当初は職員から遊びに誘っていたが、現在は、「先生、これやろう。」と誘ってきたり、ルールを決め自分たちで遊び方を発展させている。自由に過ごせる空間が子どもたちの遊びを創造性のあるものになっているように思う。

<保護者の様子>

・利用児童の帰宅方法は迎えが多く、お迎えに来た保護者には、直に館内や館庭・校庭での子どもたちの様子を見ていただき、職員からも子どもの様子お伝えするようにしている。そのためか様々な試みに対し好意的に捉えていただいていると感じる。コドモンを介した通信においても円滑に活用いただいております。連絡やお知らせに対し、ほとんどの保護者が遅滞なく応えていただいている。

<時間外利用の様子>

・平日の18時以降は4～5人の児童が利用している。

・終日、どこの部屋でも自由に過ごすことができる環境にしており、職員を相手に遊戯室で卓球や風船バレー、教室や図書室で宿題や読書・ゲームなど思い思いに過ごしている。

令和7年度 中地区放課後子ども教室の利用状況

◇放課後子ども教室登録者458名（中部小418名・風越28名、サミット12名）

※中部小学校在籍児童数520名（令和8年3月1日現在）全児童の80.4%登録

◇放課後子ども教室開所日数 293日（2月まで268日）

◇放課後子ども教室の一日の平均利用者 32,531人/268日=121.4人（2月までの平均）

月	日数	放課後子ども 教室利用数	利用児童内訳			地域協力者	
			中部小	風越学園	サミットアカデミー	講師等	ボランティア
4	25	3,553	3,543	6	4	0	0
5	25	3,219	3,213	0	6	1	0
6	25	3,622	3,622	0	0	15	0
7	26	3,476	3,458	5	13	10	0
8	25	2,036	2,007	14	15	6	6
9	24	3,533	3,531	2	0	6	0
10	26	3,257	3,255	2	0	2	1
11	23	2,494	2,494	0	0	2	0
12	24	2,566	2,565	1	0	0	2
1	23	2,316	2,314	2	0	1	0
2	22	2,459	2,459	0	0	1	0
計	268	32,531	32,461	32	38	44	9

【今年度の評価（現状と課題）】

○活動や運営について

昨年度に比べ1学期の利用者が増加した。特に4月は、1日の利用者が235名、236名と200名を超えることもあった。今年度も中部小学校1年生の放課後子ども教室登録児童は84/88人と1年生のほぼすべての児童が登録をし利用している姿が見られた。人数増で、厚生員の数不足する場面が見られた。

○体験教室について

今年度は、新たに軽井沢町の伝統文化を学ぶをテーマに追分節保存会・神楽保存会の皆様に来館していただき、軽井沢町に伝わる伝統文化、追分節や神楽について学んだ。子どもたちの様子を見ると初めての試みであったが「もっと知りたいな」「太鼓は楽しかった」等の感想が寄せられ貴重な体験教室になったと感じた。

また、例年通り様々な体験教室（プラバン・工作・マジックショー・コンサート・スライム等々）も行いそのたびに体験教室を楽しむ姿が見られた。

今年度、初めての試みとして、1年生を対象とした「遊び塾」を月1回ほど行い毎回25名程度の1年生が参加した。遊びを通して人間関係の広がりが見られた。

○学校や地域との協力・連携について

学校との連携により、スムーズな運営ができていると感じる。また、今年度は、「自然物を使った工作」「プラバン作り」など、ボランティアの方に助けていただき有難かった。放課後子ども教室のコーディネーターが積極的にボランティア募集を行ったが、ボランティアの方がなかなか集まらない現状もある。

<児童の様子>

特徴のある児童の増加が支援員の負担になっている場面が多くみられるようになった。今後も特徴のある児童の増加が予想されその対応が今後の課題になっている。児童館では、「一輪車・なわとび・けん玉」の検定を行っており、検定を受ける児童が増加している。特に一輪車では、児童館に来館するほとんどの児童が一輪車に乗れるようになっただけでなく、手足のように一輪車を操る子どもたちの姿を見ると改めて、子どもたちの可能性を感じるが多かった。

<保護者の様子>

おおむね、好意的、協力的な保護者が多く、児童館の運営についてご理解いただいていると感じる。コドモンの利用が定着し、保護者との連絡がスムーズに行えるようになってきている。ただコドモンへの利用登録等を入力していただけないご家庭もあり、その都度声掛けし、コドモンの確実な利用をお願いしている。

保護者からは、宿題や勉強も見てほしいという要望がしばしば寄せられた。アドバイザーがいない現状では、保護者の要望に応えることは難しい。

<時間外利用の様子>

1日平均4～5人と比較的少ない状況であり、18時を超えることは少ない。

令和7年度 西地区放課後子ども教室の利用状況

◇放課後子ども教室登録者 280名（西部小275名・風越2名・サミット3名）

※西部小学校在籍児童数356名（令和8年3月1日現在）全児童の77.2%登録

◇放課後子ども教室開所日数 293日（2月まで268日）

◇放課後子ども教室の一日の平均利用者 21,762人/268日=81.2人（2月までの平均）

月	日数	放課後子ども教室 利用数	利用児童内訳			地域協力者	
			西部小	風越学園	サミットアカデミー	講師等	ボランティア
4	25	2,319	2,319	0	0	0	0
5	25	2,450	2,450	0	0	2	2
6	25	2,329	2,329	0	0	5	0
7	26	2,424	2,424	0	1	18	0
8	25	1,145	1,145	0	0	0	0
9	24	2,157	2,157	0	0	6	0
10	26	2,269	2,269	0	0	1	0
11	23	1,718	1,714	0	4	4	4
12	24	1,716	1,716	0	0	5	0
1	23	1,613	1,613	0	0	1	0
2	22	1,622	1,622	0	0	12	0
計	268	21,762	21,757	0	5	54	6

【今年度の評価（現状と課題）】

○活動や運営について

- ・支援システム（コドモン）導入2年目になり、親の意識の違いにより活用されている方と少数ではあるがあまり利用されない方がはっきりしてきた。
- ・児童館における学習の時間を自分で決める取り組みにより、自身で意識して主体的に学習する姿が見られるようになったが、1年生の定着はもう少し時間が必要である。

○体験教室について

- ・子ども達の興味がある工作やスポーツ等内容によって学年で分けたことで、落ち着いて参加できた。地域の伝統行事は全員参加で実施したが、今後は、子ども達のことを尊重するため希望をとることも検討したい。講師の方々も熱心にご教授いただいている。これからも子どもたちが継続して学んでいけたらありがたい。太々神楽も取り入れ体験教室の幅も広がった。今後も機会があれば、伝統行事に触れる機会を増やしたい。

- ・高学年の手話教室では、学校での探求学習の成果を活用し、積極的に講師と会話する児童も見られた。また、手話で講師の先生がトイレはどこですか。と尋ねたところ館内のトイレに手を引いて連れて行ってくれたそうです。

○学校や地域との協力・連携について

- ・西部小学校の校庭を借用したので外遊びの環境が広がり、子ども達の満足感向上につながった。また、下校時刻まで学校に居られない児童が、教育委員会の了承のもと下校時刻前の児童館利用に協力・連携している。

- ・地域の方々との連携を取り伝統行事を教えていただいたり、借宿地区公民館の作品展に児童の作品を出展したりしている。

- ・学校との連携についてはあまり取れていなかったが、子どもを支援する上で連携は不可欠となることを再認識し、密に情報共有を図るようにしている。

<児童の様子>

- ・遊戯室に可動式ネットを導入したことで、バレーやバドミントンなど遊びの幅が広がった。漫画本の購入においてアンケートを実施し、子ども達の意見を反映することができた。また、各学期に1回程度クイズ掲示を行い、児童が楽しみながら参加する姿が見られた。

- ・けん玉、一輪車など各種検定を積極的に受検し日頃から楽しみながら一生懸命取り組む姿が見られる。

<保護者の様子>

- ・迎えに来られた際に、保護者の方に館内に入って頂き、お子さんが遊んでいる様子を見ていただいている。

- ・子どもの要望により保護者が長時間待機することがあり、保育園の迎えと重なる時間帯には駐車場が混雑する日も見られる。

<時間外利用の様子>

- ・平日の18時以降の利用児童が他の館に比べ多かった。

- ・18時以降の時間外利用は、木曜日と金曜日の時間外利用が多い傾向にある。

放課後子ども教室での児童の過ごし方について

子どもたちを取り巻く状況が日々大きく変化している中、子どもたちには、生涯にわたって成長するために支えとなる「主体性」を育むことが求められています。

軽井沢町教育委員会では、放課後子ども教室が子どもたちにとって、自分で考え、判断して、行動できる「主体性」を育む、「居たい」「行きたい」「やってみたい」居場所となるよう下記のとおり取り組んでいきます。

「自由に過ごす」ことについて

「自主性」、「主体性」を育むため、子どもたちが自分で考えた過ごし方で、自由に過ごすことを保障し、「居たい」「行きたい」「やってみたい」が実現できる居場所になるよう支援していきたくと考えています。はじめは、何をしたいのかわからず館内を歩き回るだけだったり、何もせずボーとしているだけかもしれませんが、自分の周りにあるものをじっくり観察して「何をしようか」と考える時間、機会こそが大切だと考えます。子どもが「何していいかわからない。」「暇でつまらない。」と言ってくるだけでもあれこれ提案せず、「なんでもやりたいことを見つけてやってみれば良いよ。」と意識して声かけし、じっくり見守りながら待つ、そんな支援を心がけていきます。

また、仲間と「遊ぶ」ことは、自主性、協調、共感、役割、責任、他者とのかわり方を身につける、活動と学びの原点です。更に「自由な遊び」は、好奇心・探求心を養い、集中力、工夫する力、創造する力、想像力、コミュニケーション能力など、人としてより良く生きていくための基礎を培います。「自由に遊ぶ」ことができるきっかけ作りとして、低学年の希望者を対象に、地域の方々の協力を得て様々な遊びが体験できる「遊びクラブ」を実施していきます。この体験が毎日の過ごし方の選択肢を広げ、「やってみたい」につながることを期待しています。

「学習」について

「学習」は大切です。子どもたちが自分に合った時間や場所で「主体的」に学習に取り組むことを促していきます。学習に向かう児童には、学習スペースを確保し寄り添い支援して学習習慣の定着を図っていきます。

「体験教室」について

これまで、地域の方の協力を得て、スポーツ、工作、手話、伝統行事、文化・芸術等の体験や交流の機会を提供してきました。

令和8年度も、子どもの興味や関心を引き出し、子どもたちが夢中になって取り組む体験、心を動かされる体験、体験を通して気づきや学びが得られる体験を、子どもたちの「やってみたい」の声も反映させて計画していきます。また、講師やボランティア等、体験教室を通して出会う、地域の信頼できる大人との交流は、自己肯定感を高め社会性を育みます。ここでの出会いが、「将来のありたい自分」を描く一助になることを願っています。

放課後に過ごす時間は、子どもたちにとって限りある貴重な時間です。放課後が充実したかけがえのないものとなるようご支援・ご協力をお願いいたします。

令和8年度 東地区児童館放課後子ども教室 体験教室 年間計画

月 日	曜日	内 容
5月20日	水	手話教室（全学年）
6月10日	水	大縄跳び（全学年）
7月8日	水	軽井沢の野生動物との共生 ワークショップ（全学年）
7～8月 夏休み		チャレンジプログラム（全学年） （卓球・ドッチボール大会、工作、子どもたちの企画イベント等）
9月9日	水	追分節を学ぼう（全学年）
10月6～8日	水	工作教室（全学年）
11月18日	水	ドッチボール（全学年）
12月9日	水	ごぼう締めづくり（全学年）
1月 冬休み		チャレンジプログラム（全学年） （凧・福笑い・絵馬づくり、工作、子どもたちの企画イベント等）
1月27日	水	太々神楽を学ぼう（全学年）
2月10日	水	ゴスペルに挑戦（全学年）
3月2日	水	謎解きワークショップ（全学年）
3～4月 春休み		チャレンジプログラム（全学年） （ゲーム大会、スポーツ大会、子どもたちの企画イベント等）

令和8年度 中地区児童館放課後子ども教室 体験教室年間計画

月 日	内 容	月 日	内 容
4月 ～ 5月	具体計画立案及び講師選定・依頼		
6月 日()	追分節 (全学年対象)		
7月 日()	モルック or フライングディスク大会 (全学年対象)		
7月 日()	バルンアート (全学年対象)		
8月4日 (火)	プラバン or アイロンビーズ (全学年対象)		
8月7日 (金)	スライム (全学年対象)		
8月 日()	手話教室 (全学年対象)		
9月16日 (水)	体育塾 (3～6年)	9月30日 (水)	体育塾 (1・2年)
10月21日(水)	町文化展に向けた工作 (全学年対象)		
11月 日()	音楽鑑賞教室 (クリスマスコンサート) (全学年対象)		
12月2日 (水)	工作飛び出すカード (3～6年)	12月9日 (水)	工作飛び出すカード (1・2年)
1月4日 (月)	和の遊び カルタ遊び (全学年対象)		
1月5日 (火)	和の遊び 凧作り (全学年対象)		
1月6日 (水)	和の遊び コマ遊び (全学年対象)		
2月 日()	神楽を学ぼう (全学年対象)		

令和8年度 西地区児童館放課後子ども教室 体験教室 年間計画

月日	曜日	内 容	
		低学年（1年生～3年生）	高学年（4年生～6年生）
5月13日	水	プラバンづくり	
5月27日	水		体育塾（サッカー）
6月3日	水		体育塾（バスケットボール）
6月10日	水	絵本作家アッコトのぬりえバックワークショップ	
7月22日	水	追分節をみんなで学ぼう（全学年）	
8月5日	水	夏休み工作（全学年）	
9月16日	水	借宿地区作品展に向けて作品作り（全学年）	
10月14日	水	マジックショー（全学年）	
11月4日	水		ワラ鉄砲づくり
11月11日	水	読み聞かせ	
12月2日	水	ボディーパーカッション	
12月16日	水		しめ縄づくり
2月3日	水	豆まき（全学年）	
2月17日	水	手話教室（全学年）	
3月3日	水	太々神楽を学ぼう（全学年）	
<p>※指導者等の都合により、内容や日程を変更することがあります。 ※体験教室は午後3時10分から1時間位を予定しています。子どもたちが最後まで活動に参加できるようにお迎えの時間等ご配慮いただきたくご協力をお願いします。</p>			
西地区児童館			

令和8年度 放課後子ども教室「遊びクラブ」

【内容】

5、10、1月		7、11、2月	
① おにごっこ	しっぽとり 氷おに 手つなぎおに ラインおに 増やしおに など	① おにごっこ	しっぽとり 氷おに 手つなぎおに ラインおに 増やしおに など
② 歩行運動	大股歩き 小股歩き つま先歩き かかと歩き スキップ など	② ボール遊び	投げてキャッチ 転がしてとめる キャッチボール ボール渡し ボールとり など
③ 二人組運動	手つなぎ背中たたき 手つなぎしっぽとり 馬跳び股くぐり はいはい逃げ 体ひっくり返し など	③ 道具遊び	なわとび ビブス交換ゲーム コーン倒し マーカー色別ジャンプ マーカーとり など
④ 遊び	宝とり 3並べ じゃんけん列車 ハンカチ落とし 魚とり など	④ サーキット	ミニハードル ラダー リング ミニコーン マーカー など
⑤ 球技	ドッジボール 中当て サッカー キックベース バスケットボール など	⑤ リレー	円形 縦向き ボールリレー 手つなぎリレー ビブス渡しリレー など

【スケジュール】

中地区遊びクラブ 6回(5/13、7/1、10/7、11/11、1/6、2/3)

西地区遊びクラブ 6回(5/20、7/8、10/21、11/25、1/13、2/10)

東地区遊びクラブ 6回(5/27、7/15、10/14、11/4、1/20、2/17)

「地域と学校の連携・協働体制構築事業」における重点的に取り組む課題に応じた目標及び実績

●令和7年度

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和8年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
20321軽井沢町	②学校と地域の課題	05 その他	放課後子ども教室を利用する児童において、主体的に学習するという習慣化が見られない児童がいる。	①入館の時点で学習時間と学習する場、学習内容を自分で決める。 ②学習意欲が持てるようスタッフが関わり方を工夫して支援する。 ③Wi-Fi環境の整備を行いタブレット学習にも対応できるようにする。 この3点を実施して主体的な学習の定着化を目指す。	①入館後は直ちに学習室での学習を行うことをきまりとして習慣化を図ったが惰性的な取組状況になっていた。 ②スタッフの支援も声掛けにとどまり学習意欲を喚起できるまでの支援となっていなかった。 ③Wi-Fi環境が無く学校から貸与されているタブレットでの学習ができなかった。 これらのことを踏まえ令和7年度は、学習時間、学習空間を学習者本人が決めることができるようにすると共に、スタッフも研修により児童が主体的に学習に取り組む支援ができるようにしていく。また、タブレット学習ができるようWi-Fi環境を整備する。	主体的に学習に取り組めるようになる。	いつ、どこで学習するかを決めて学習している児童の割合（アンケート実施）	0	%	30	75%	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 いつ、どこで学習するかを本人が決めて学習できるよう放課後子ども教室の学習時間、学習空間の制限を無くした。また、Wi-Fi環境も整え、タブレットでの学習もいつでもできるようにした。加えて、学習をいつ、どこで行うかを定める機会を来館時に玄関先のホワイトボードに各自、掲示することで意思表示ができる仕組みにした。これにより、目標の達成度を測る指標の本人が意思表示することは概ね100%達成できたが、「放課後子ども教室以外で学習する」と決めた児童については、いつ、どこで学習するかを把握できていない。 成果としては、放課後子ども教室での過ごし方を見直しをもって活動できる児童が増えたこと、意思表示を掲示することで保護者・スタッフが共有でき、相互に学習に向けた声掛けができるようになったこと、スタッフも児童の決定した学習が履行できるよう、一人ひとりにあった支援方法を検討したり研修を受講する等、試行錯誤で取り組む姿が見られたことが挙げられる。

●令和8年度

市町村名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和8年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和7年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
20321軽井沢町	②学校と地域の課題	05 その他	放課後子ども教室において、児童の主体的な活動を支援しているが、学習への取り組みの支援が十分でなく、学習の習慣化が図れていない。	職員が、子供たちが主体的な取組になるような声掛けや支援の在り方を学び、支援のスキルを上げる。	学習時間と学習場所・学習内容を自分で決め、主体的に取り組む姿が見られるようになってきたが、一定数、学校以外で学習する習慣のない児童がいる。	打ち合わせ会議や研修会を行い、職員が支援の在り方を研究することで、効果的な働きかけができるようになる。	支援の在り方を研究する研修への職員の参加率	60	%	80		
20321軽井沢町	②学校と地域の課題	05 その他	放課後子ども教室において、問題行動のある児童の情報不足により支援方法や対策が講じ難い	児童の理解を深めるための情報共有の場を設ける。		児童の理解が深まりより良い支援ができるようになる。 利用児童が、理解者を得て安全に楽しく過ごせるようになる。	児童理解を深めるためスクールカウンセラーとの連携会議を行う。	0	回	6		